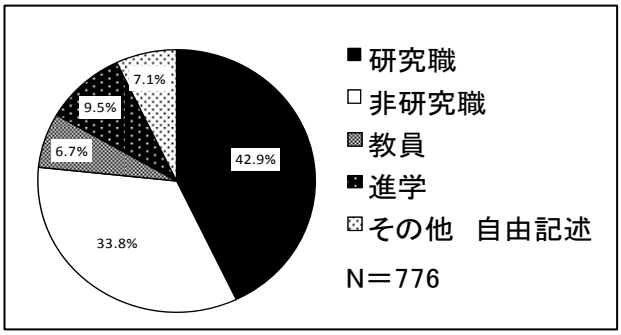
第5章　キャリア形成について

5－1　進路希望【大学院生】

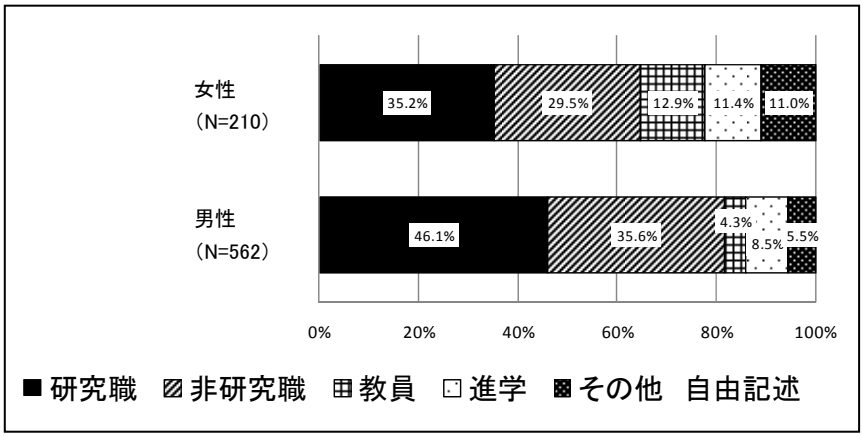
現在博士前期課程（修士）に在学中の大学院生に対して，博士課程後期への進学を含む進路希望について尋ねたところ，以下のような回答を得た。

院生　Q8　現在あなたが博士前期課程修了後に一番希望している進路を教えてください。

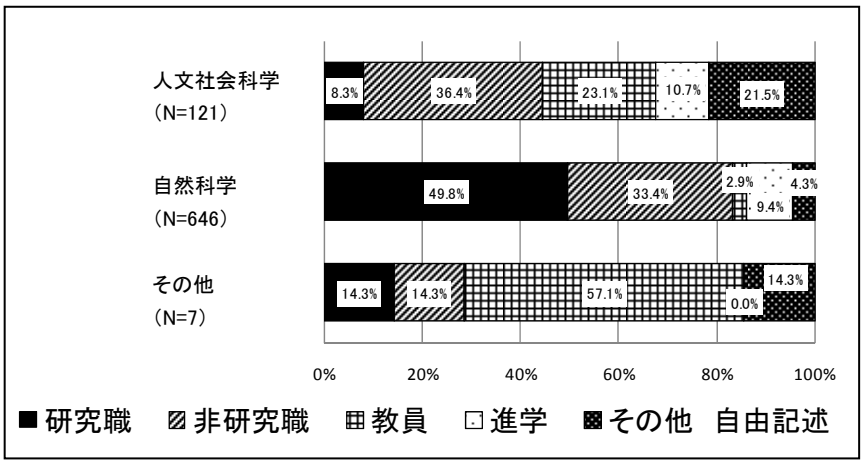
【選択肢】
1.研究職　2.非研究職　3.教員　4.進学　5.その他　自由記述



大学院博士前期課程の大学院生の場合，進路の希望は研究職 333 人（42.9%），非研究職 262 人（33.8%），教員 52 人(6.7%)，進学 74 人（9.5%）であった。



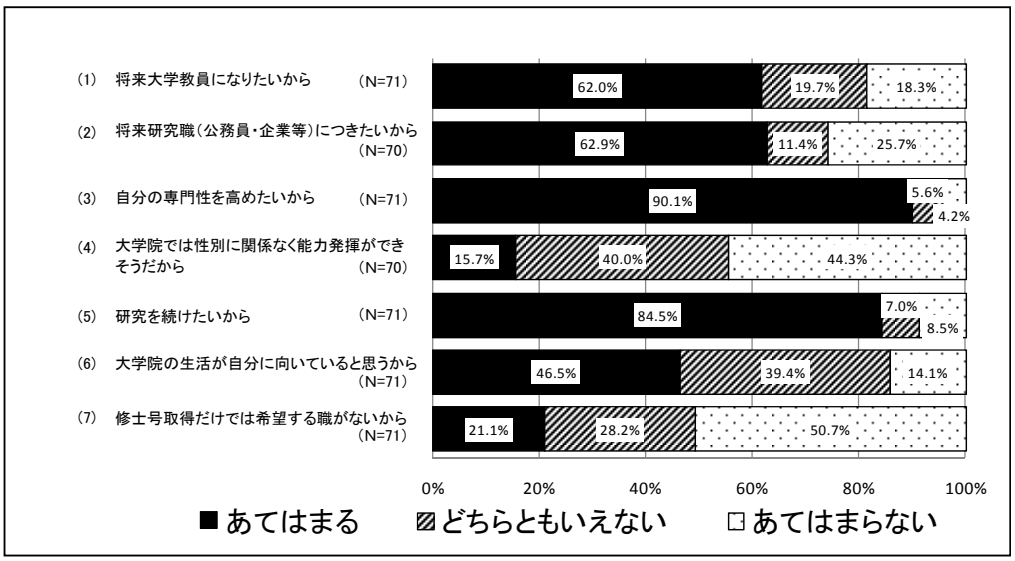
男女別にみると，研究職志望者の割合は男性で 46.1%，女性で 35.2%と，男性の方が研究職に対する志向性が強い。一方，教員志望者は男性 4.3%，女性 12.9%となっており，女性の方が教員志向性が強いといえる。なお，博士後期課程への進学希望者は男性（8.5%）に比べて女性（11.4%）のほうが多いことも注目される。



専攻分野別にみると，人文社会科学専攻の博士前期課程（修士）の大学院生のうち研究職志望者は 8.3%であるのに対し，自然科学専攻の大学院生は 49.8%が研究職を志望しており，明らかな進路志向性の差異が認められる。これは，人文社会科学系分野における研究職ポストの少なさも要因として働いていると考えられる。博士課程後期への進学希望者の割合については，自然科学専攻と人文社会科学専攻の間に大きな差はない。

院生　Q9　博士後期課程への進学を希望する理由として次の事柄はどの程度あてはまりますか。

【選択肢】
1.あてはまる　2.どちらともいえない　3.あてはまらない

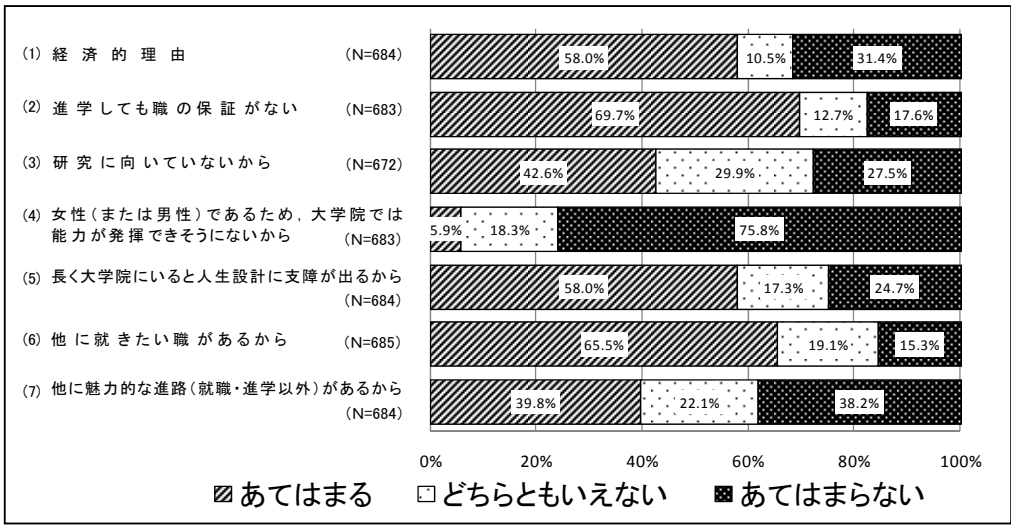


博士後期課程への進学を希望する 71 人に進学希望理由について尋ねたところ，「（3）自分の専門性を高めたいから」に「あてはまる（＝「とてもあてはまる」「ややあてはまる」

の合計，以下同じ）と答えた者は 90.1%であり，これが進学希望理由の最も大きな要因であるといえる。また，「（５）研究を続けたいから」を「あてはまる」としたものも 84.5%と多い。「（１）将来大学教員になりたいから」，「（２）将来研究職（公務員・企業等）につきたいから」という項目にもそれぞれ 60%以上が賛同している。一方，「（７）修士号取得だけでは希望する職がないから」を理由に挙げたものは 21.1%にすぎず，進学希望者は明確な目的を持って進学を目指しているといえそうだ。なお，「（４）大学院では性別に関係なく能力発揮ができそうだから」という項目を「あてはまる」と答えたのは 15.7%のみであるが，71 人のうち 47 人は男性であることも回答に影響しているかもしれない。

院生　Q10　博士後期課程への進学を希望しない理由として，次の事柄はどの程度あてはまりますか。

【選択肢】
1.あてはまる　2.どちらともいえない　3.あてはまらない



博士後期課程への進学を希望しないと回答した大学院生にその理由を尋ねた。「（２）進学しても職の保障がないから」，「（６）他に就きたい職があるから」に「あてはまる」と答えた者はそれぞれ 69.7%と 65.5%である。「（１）経済的理由」，「(５)長く大学院にいると人生設計に支障が出るから」という項目に対して「あてはまる」とした回答もそれぞれ 58%となっており，大学院の学費の高さや就職難などの社会情勢も大きく影響していそうだ。「(３)研究に向いていないから」「(７)他に魅力的な進路（就職・進学以外）があるから」という項目にはそれぞれ 40%程度が賛同しており，大学院生自身の適性を自ら省みたり，ほかの可能性と比較検討した結果の進路選択であるともいえよう。

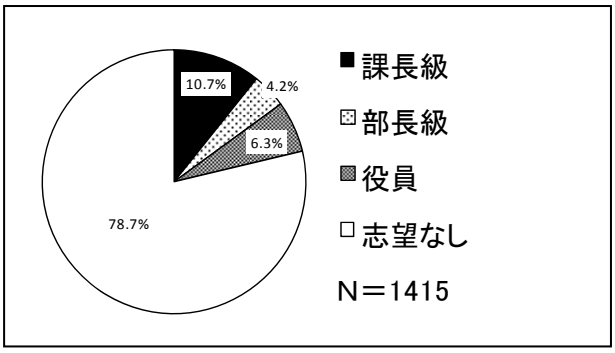
一方，「(４)女性（または男性）であるため，大学院では能力が発揮できそうにないから」という項目については 75.8%が「あてはまらない（＝「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の合計）と答えており，性差は博士後期課程への進学希望を左右する要因ではないと考えている人が多いことがわかる。

5－2　昇任希望の有無【職員】

職員に対して，昇任の希望の有無を尋ねた。

職員 Q14　あなたは，今後どこまで昇任したいですか。

【選択肢】
1.課長級　2.部長級　3.役員　4.今以上の昇任を望んでいない



この設問に対する回答からは大多数の回答者が昇任を希望していない状況が明らかになった。具体的には，「課長級」の昇任を希望するものが 10.7%，「部長級」が 4.2%，「役員」が 6.3%，「今以上の昇任を望んでいない」が 78.7%である。

性別でみると，「今以上の昇任を望んでいない」職員の割合は，男性職員で 46.8%，女性職員で 89.6%であった。年代別でみると，「今以上の昇任を望んでいない」職員の割合は年代による差がほとんどなく，60 代以上を除くと，いずれも 80%前後であった。しかしながら「役員」までの昇任を望んでいる比率については，20 代以下が 8.0%，30 代が 7.5%，40 代が 5.4%，50 代が 2.9%，60 代以上が 0.0%となっており，若い世代ほど比率が高くなっている。

一方，勤務形態別でみると，常勤職員では，「課長級」が 13.1%，「部長級」が 5.5%，「役員」が 6.5%，「今以上の昇任を望んでいない」が 74.8%であるのに対し，非常勤職員では，「課長級」が 4.3%，「部長級」が 0.8%，「役員」が 6.0%，「今以上の昇任を望んでいない」が 88.9%であった。また，職種でみると，「今以上の昇任を望んでいない」職員の割合は，事務職員で 70.2%，技術職員で 77.8%，医療系職員で 86.0%であり，医療系職員の比率が高いことが目立つ。これは，課長級以上のポストが少ないことも影響していると考えられる。